

家畜衛生情報

香 川 県 畜 産 課
 TEL(087)832-3426~8 FAX(087)806-0204
 香 川 県 東 部 家 畜 保 健 衛 生 所
 TEL(087)898-1121 FAX(087)898-9558
 香 川 県 西 部 家 畜 保 健 衛 生 所
 TEL(0877)62-0020 FAX(0877)62-3299

平成31年度 畜産施策の概要

平成30年1月に本県での高病原性鳥インフルエンザの発生や、岐阜県と愛知県等で同年9月から豚コレラの発生が続いていることから、異常家畜の早期発見・早期通報をはじめとする飼養衛生管理基準遵守の徹底の重要性がさらに高まっています。こうした状況を受け、今年度は、農場の飼養衛生管理基準遵守レベルの向上を図るとともに、市町及び関係団体等との連携強化や、家畜伝染病に対する監視・防疫・まん延防止等の危機管理体制の強化に取り組んでまいります。また、定期検査では、本県で初めて肉用繁殖牛を対象としたヨーネ病検査を開始するとともに、最近の県内の課題である牛白血病、牛ウイルス性下痢・粘膜病、豚繁殖・呼吸障害症候群の検査体制の整備にも取り組んでまいります。

一方、畜産経営面では、TPPや日EU・EPAの経済連携協定が発効2年目となり、関税がさらに引き下げられるなど、海外からの安価な畜産物の輸入増による影響が今後の大きな不安材料になっています。また、鶏卵の価格低下や、肥育素牛及び乳用後継牛の価格高騰に伴う収益性の悪化も懸念されています。

このような中、安定した畜産経営を継続できるよう、品質向上やコスト低減等により経営体質を強化する必要があります。このため、県では、国が行う畜産経営安定対策事業に係る支援を行うとともに、畜産クラスター事業等の活用による収益力向上や省力化等による経営基盤の強化を図ってまいります。さらに、酪農後継牛の自家育成支援や、畜産農家と耕種農家等との連携による効果的な自給飼料の生産を推進してまいります。

また、「オリーブ牛」、「オリーブ夢豚・オリーブ豚」に続いて、昨年3月に新たに「オリーブ地鶏」が誕生したことから、3つのブランドが揃ったことを本県の強みとして、効果的なブランド力向上の取組みを展開することとしています。特に、「オリーブ牛」については、「全国和牛能力共進会」での「脂肪の質賞」受賞を、各種イベントで「脂肪の質日本一！」としてPRするなど、一層の販売促進に努めるとともに、海外での富裕層の多い地域等をターゲットに効率的に情報発信を行い、国内販路拡大や輸出促進を一層推進してまいります。さらに、県内の繁殖雌牛の遺伝子解析による「脂肪の質」等の優れた遺伝子を持つ牛を調査・選別し、高品質な「オリーブ牛」の増頭による産地形成を図ってまいります。

今年度も、国の施策の積極的な活用にも努めるとともに、県予算の効果的な配分により、家畜防疫体制や生産基盤の強化、販売促進などの施策を総合的に推進してまいります。

疾病情報

家畜伝染病・伝染性疾病発生状況(近県)

疾病名	畜種	発生場所	発生時期	発生戸数	発生頭羽数
ヨーネ病(法定)	山羊	兵庫県	H31.1月	1	2
牛白血病(届出)	牛	兵庫県、岡山県、広島県 鳥取県、島根県、山口県 愛媛県、徳島県、香川県	H31.1月~H31.3月	100	105
牛ウイルス性下痢粘膜症(届出)	牛	兵庫県、岡山県、香川県	H31.1月~H31.3月	6	10
牛サルモネラ症(届出)	牛	岡山県	H31.1月	2	10
破傷風(届出)	牛	島根県	H31.1月	1	1
豚丹毒(届出)	豚	兵庫県、岡山県、広島県 鳥取県、島根県、愛媛県 徳島県、高知県、香川県	H31.1月~H31.3月	44	84
豚サルモネラ症(届出)	豚	岡山県、愛媛県	H31.3月	2	14
伝染性気管支炎(届出)	鶏	愛媛県	H31.2月	1	4
伝染性ファブリキウス嚢病(届出)	鶏	愛媛県	H31.2月	1	4
鶏マイコプラズマ病(届出)	鶏	広島県	H31.3月	1	2
アカリダニ症(届出)	蜜蜂	兵庫県、岡山県、広島県 島根県、愛媛県、徳島県	H31.1月~H31.3月	18	24

牛のサルモネラ症について

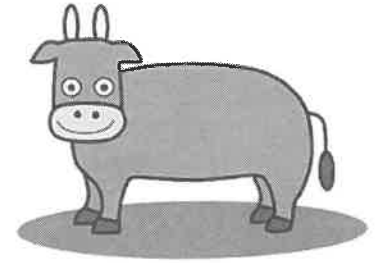
サルモネラ症は、サルモネラ属菌によって起こる感染症で、牛では主として子牛で下痢や血便といった症状をひきおこしますが、成牛では下痢や血便のほか、乳量減少や流産といった症状がみられることがあります。また、下痢ではなく、呼吸器症状や流産のみがみられる場合もあります。

昨年、本県でサルモネラ・ダブリン（以下、「SD」）による死亡を伴う発生事例がありましたので、その概要を紹介します。

当該農場では初夏より流産や成牛の死亡事例が増えたのと同時に、子牛で呼吸器症状が拡がってきました。死亡した子牛1頭と成牛2頭のうち、下痢をしていたのは成牛1頭のみで、子牛は呼吸器症状、別の成牛1頭は流産後の死亡事例でした。細菌検査により、全身の臓器からはSDが分離されましたが、下痢便からは検出されませんでした。これらの結果により、一連の異常の原因がSDの感染によるものと分かったため、成牛全頭にSDのワクチンを接種し、また、子牛を含めた全頭に生菌製剤を投与することで、農場の衛生状態は改善しました。4ヵ月の間で10頭以上の成牛が死亡し、大きな経済損失となりました。

多くのサルモネラ属菌は、牛の腸管でよく増えるため、一般的には下痢や血便が主な症状となります。しかし、SDは全身の臓器に潜り込んで、牛の免疫力が低下した時に一気に状態を悪化させるという特徴があり、「サルモネラ症=下痢・血便」とは限りません。典型的な症状でなくても、感染症を疑うような異常が農場で見られましたら、最寄りの家畜保健衛生所にご相談ください。

今回の事例のほか、子牛からサルモネラ・ニューポートや豚からサルモネラ・ティフィムリウム、イノシシからサルモネラ・トンプソンなど下痢・血便を起こすサルモネラ属菌も分離されているので、車両消毒や野生動物の侵入防止など飼養衛生管理基準の遵守を日頃から心がけてください。



岐阜県養豚農場の飼養衛生管理基準の状況確認調査について

豚コレラの発生が続いている岐阜県において、豚飼養農場の飼養衛生管理基準の状況確認と指導のため、国、岐阜県、養豚開業獣医師、岐阜県以外の県の家畜防疫員が合同で調査を実施しています。平成31年2月に国からの要請を受け、この調査に参加しましたので、その概要を報告します。

- 1 調査対象農場：豚コレラ非発生農場、飼育頭数約1,100頭（一貫経営）
- 2 飼養衛生管理基準の状況確認調査内容

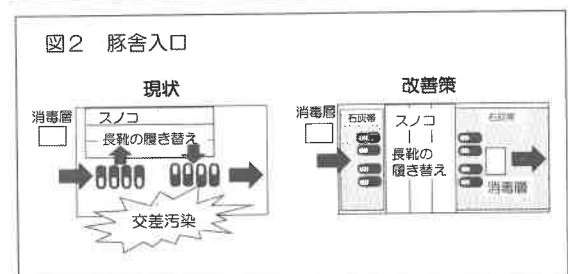
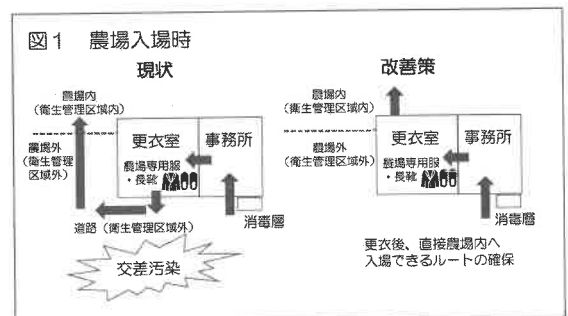
(1) 特に良かった点

- ・農場周囲のワイヤーメッシュ設置により、外部と隔離
- ・死亡畜保管のための冷凍庫の設置
- ・豚舎の隙間や堆肥化処理施設等への防鳥ネットの設置等

(2) 改善のためのアドバイス内容

- ① 農場入場時に専用服等着用後、道路（衛生管理区域外）を通ることから、交差汚染防止のため、更衣後直接農場内に入場できるルートを確認（図1）。
- ② 豚舎入口での農場専用長靴と豚舎専用長靴の着脱場所が同一であることから、交差汚染防止のため、スノコ設置の向きを変えることにより着脱場所を分離。石灰帯と消毒槽の設置で消毒力UP（図2）。

「交差汚染防止」を目的とした各農場内の確認を、今一度よろしくお願ひします。



県内の食鳥検査成績について

平成29年度の食鳥検査におけるブロイラーの内臓摘出禁止を含めた廃棄羽数は85,722羽で、検査羽数に占める廃棄率は1.90%でした。

中でも全部廃棄(29,935羽)のほとんどが、腹水症(16,994羽 56.8%)と鶏大腸菌症(10,058羽 33.6%)によるものでした。

中でも鶏大腸菌症は全国的に廃棄率に占める割合が増加している疾病で、各農場での育成率の低下、増体の悪化の主要な原因となります。さらに、病原性大腸菌の場合は食肉を原因とする食中毒を起こす可能性もあります。

予防には、下記の対策が重要となります。

- ①飼養衛生管理基準遵守の徹底
- ②日齢に沿った適切な温度管理の徹底
- ③適正換気量の確保
- ④オールイン・オールアウトにおける消毒の徹底
- ⑤ワクチン接種

種 類	ブ ロ イ ラ ー			
	4,505,806			
検査羽数	禁 止	全部廃棄	一部廃棄	総 計
処分内訳				
処分実羽数(計)	13,528	29,935	42,259	85,722
マレック病	0	1	0	1
鶏大腸菌症	0	10,058	0	10,058
変 性	2,512	2,143	2,538	7,193
腹 水 症	22	16,994	0	17,016
出 血	39	5	5,444	5,488
炎 症	80	1	34,277	34,358
削瘦及び発育不良	10,309	713	0	11,022
放 血 不 良	245	0	0	245
黄 疸	0	20	0	20
そ の 他	320	0	0	320
廃 棄 率	0.30%	0.66%	0.94%	1.90%

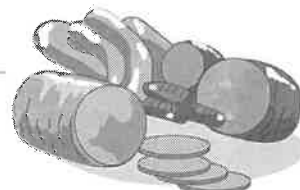
(単位：羽)

また、抗生物質を多用することによって様々な薬剤に耐性を持った大腸菌が発生し、問題となっております。抗生物質を乱用するのではなく、最寄りの家畜保健衛生所に相談の上、適切な抗生物質の使用に努めてください。

海外からの病原体侵入防止に努めましょう！

平成30年9月以降、岐阜県、愛知県で「豚コレラ」が発生し、平成31年4月現在も発生が続いています。検出された豚コレラウイルスは、遺伝子解析結果から海外から持ち込まれたことが判明しました。また、中国で猛威を振るう「アフリカ豚コレラ」はベトナム等にも感染が広がり、日本国内への侵入も懸念されています。近年は海外との人・物の交流が特に盛んであり、病原体が海外から侵入するリスクは非常に高い状態です。実際に、海外から旅行客が持ち込んだ畜産物から、生きたアフリカ豚コレラウイルスが検出されています。家畜飼養者の皆様は、次の事項を再確認し、病原体侵入の機会を無くすよう御協力ください。また、従業員を雇用している農場、特に海外からの従業員を受け入れている農場では、従業員全員が以下の項目の内容をきちんと理解し、遵守できるようにしてください。

- 口蹄疫や豚コレラ、アフリカ豚コレラ、鳥インフルエンザなどの家畜伝染病の症状をよく理解し、飼育する家畜に疑わしい症状が見られる場合は、すぐに家畜保健衛生所に連絡を！
- 海外から生肉やハム、ソーセージなどの畜産物は許可なく日本に持ち込めません！
(国際郵便などで海外から送ってもらうこともできません)
- 海外で家畜やその糞尿と接触したものを日本へ持ち込むことはできません！
(家畜と接触したものがある場合は、入国時に動物検疫所カウンターへ)
- 過去4か月以内に海外で使用した衣類や靴等は農場に持ち込めません！
(どうしても持ち込まないといけない場合は、十分な消毒を)
- 日本への入国後1週間は農場に立ち入ることはできません。
(どうしても期間内に農場へ立ち入る場合は、必ず事前にシャワーや着替え等を)



平成31年度 香川県畜産課関係組織体制

畜産課

課長 澤野一浩
副課長 山本知子
家畜防疫主幹 笹田布佐子

【総務・経営グループ】

課長補佐(兼) 山本知子
副主幹 真鍋大明
副主幹 川井美貴
主任 都築高弘
主任技師 山岡彩花

【生産流通グループ】

課長補佐(総括) 田淵賢治
副主幹 矢野敦史
主任 上村知子
主任 北本英司
主任 田中勝啓
主任 井手上奈央

【衛生環境グループ】

課長補佐 田中宏一
副主幹 澁市さつき
主任 瀬尾泰隆
主任 坂下奈津美
主任技師 原 基

東部家畜保健衛生所

所長 野崎 宏
次長(兼) 泉川康弘
家畜防疫主幹

【庶務課】

課長 青木一洋
主任 藤岡 貴
嘱託 佐藤直子
臨時職員 松本晃一

【衛生指導課】

課長(兼) 泉川康弘
副主幹 上村 圭一

【防疫課】

課長 大西美弥
主任 久保貴士
主任 香川正樹
主任 光野貴文

【病性鑑定室】

室長 向阪優雅
主任研究員 森西恵子
主任研究員 片山進亮
主任研究員 土佐 進
技師 中津弥乃梨

【小豆支所】

室長 森田えり
嘱託 明田由加里
嘱託 赤岩和美

西部家畜保健衛生所

所長 上原 力
家畜防疫主幹(兼) 高橋茂隆

【庶務課】

課長 篠原啓二
主任 神原照生
主任 山下義夫

【衛生指導課】

課長 川田建二
副主幹 梶野昌伯
主任 合田憲功

【防疫課】

課長 松元良祐
主任 宮本純子
技師 四宮有果

【西讃支所】

支所長 高橋茂隆
副主幹 渡邊朋子
副主幹 萱原由美
副主幹 山本英次
主任 後藤博幸
嘱託(獣医師) 秋山正尊

畜産試験場

場長 大谷徳寿
次長 笹田裕司

【総務課】

課長 有馬芳文
主任 古川一男
主任 笠井弘子

【酪農・肉牛担当】

主席研究員 高橋和裕
主席研究員 三好里美
副主幹 池田 誠
主任技師 増川慶大
技師 傍示 和

【飼料環境担当】

主席研究員 齊藤武司
主任研究員 今雪幹也

【養豚担当】

主任研究員 山下洋治
技師 豊嶋 愛

【養鶏担当】

主席研究員 三谷英嗣
主任技師 川江早矢香

<お知らせ>

○6月15日は、鶏などの定期報告書の提出期限です。

鶏、あひる、うずら、きじ、だちょう、ほろほろ鳥及び七面鳥の所有者は、平成31年2月1日現在の飼養羽数等について、令和元年6月15日までに報告をお願いします。

○家畜人工授精師養成講習会の開催について

家畜人工授精師養成講習会(牛)を次のとおり開催します。詳細は5月以降に県ホームページ等でお知らせします。受講を希望する方は、最寄りの家畜保健衛生所に連絡してください。

開催日：令和元年7月25日～8月28日

開催場所：講義 県立農業大学校(琴平町)

実習 県立畜産試験場(三木町)

申込締切：令和元年6月27日

○畜産環境苦情の多発注意報！

畜産環境に関する苦情が寄せられ始めています。

畜舎からのふん尿の早期処理・早期排出のため、家畜排せつ物の適正管理や、施設の清掃等の適切な対策を実施し、家畜の飼養に伴う悪臭及び害虫の発生を防止・低減しましょう。